

シベ語の動詞接尾辞・mi, ・Xei, ・mahei について
—アスペクトと時間ダイクシスの体系—

児倉 徳和

キーワード：シベ語（満洲=ツングース諸語）、テンス・アスペクト、時間ダイクシス

要旨

本論文では、シベ語の動詞接尾辞・mi, ・Xei, ・mahei の機能の検討を行うことを通して、テンス・アスペクトの体系化を行った。従来・mi と・Xei は非過去・過去というテンスの対立であるとされてきたが、本論文ではまずシベ語には文法化されたテンスがなく、・Xei と・mahei が完了と非完了というアスペクトの対立をなすということを主張した上で、シベ語が文法的なテンスを持たないものの、アスペクト形式の選択という点で発話時が基準時として働く傾向が強いことを指摘する。

1. 問題の所在

本論文では、シベ語¹の動詞に付加される接尾辞・mi, ・Xei², ・mahei の機能を論じる。シベ語の動詞接尾辞の議論は、李樹蘭ほか（1984）に見られる。李樹蘭ほか（1984）では、・Xei（李樹蘭ほか 1984 では・hei）と・mi（同・m）の対立は「過去」対「現在・将来」という「時（テンス）」の対立であり、・mahei（同・mahei）は進行という「体（アスペクト）」を表わすとされている。

表 1. 李樹蘭ほか（1984）によるシベ語のテンス・アスペクトの体系

時 \ 体	進行	未完成	完成
過去	・mah ⁴ +bihei	・m+bihei	・x ⁵ +bihei
現在—将来	・mahei	・m+ohui	

¹本稿のデータは筆者が 2007 年と 2008 年に中国・新疆ウイグル自治区イーニン市における現地調査により得たものである。コンサルタントは 60 歳代の男性（第 3 ニル出身）である。また、本稿の執筆の過程で西村義樹先生と長谷川明香氏には貴重なコメントを頂いた。ここにお礼を申し上げたい。

なお、本稿でのシベ語の表記は Kubo(2008)に倣い以下の音素表記を用いる：/a, e, i, o, u, p, b, t, d, k, g, q, G, f, s, x, h, š, c, j, r, l, m, n, ŋ, N, y, w/ このうち/h/は Kubo(2008)の/ɣ/に相当する。

² X は語幹に応じて /x/ないし /h/で現れる。

³ ・heng は、過去・hei の連体形・he に名詞化要素・ng が後続したものである。

⁴ ・mah は、進行・mahei の連体形である。

⁵ ・x は過去・h の形動詞形（主に名詞を修飾する場合の形式）である。

李樹蘭ほか(1984)の体系には、補助動詞 *bihei* (筆者の表記では *bixei*) や *ohui* といった補助動詞を伴った複合形式も含まれている。しかし筆者は、補助動詞 *bi-/ila-/o-* を伴った形式は独立して別の体系を成すと主張しており(児倉 2009)、上記の体系は再検討の余地がある。そこで本論では、シベ語におけるテンス・アスペクトの体系を検討するために、語幹に直接後続し屈折性の高い三つの接尾辞 *-mi*, *-Xei*, *-mahei* の機能的差異を検討したい。

2. *-mi*, *-Xei*, *-mahei* の機能的対立

-mi, *-Xei*, *-mahei* の機能的差異を検討するにあたり、まず2節において *-mi* の機能を主に *-mahei* と比較しつつ検討し、次いで3節において *-Xei* と *-mahei* の機能を相互に対照しつつ検討する。先に結論を述べると、接尾辞 *-mi*, *-Xei*, *-mahei* の機能はそれぞれ以下のようにまとめられる。

-mi : 時間軸上に個別的・具体的な事態として位置付けられることのない、抽象化された事態 (non-actual situation) を表わす。

-Xei : 時間軸上に位置付けられる個別的・具体的な事態 (actual situation) を、完了的 (perfective) に捉える。

-mahei : 時間軸上に位置付けられる個別・具体的な事態 (actual situation) を、非完了的 (imperfective) に捉える。

これらの接尾辞の機能を表にまとめると、以下のようになる。

表2 *-mi*, *-Xei*, *-mahei* の機能的対立

抽象化された事態 non-actual	<i>-mi</i> (<i>-qu</i>)	
個別的・具体的事態 actual	非完了的 <i>-mahei</i> (<i>-mahaqui</i>)	完了的 <i>-Xei</i> (<i>-Xaqui</i>)

※カッコ内は否定のものを表わす。

2.1 接尾辞 *-mi* の意味機能

先に *-mi* は時間軸上に個別的・具体的な事態として位置付けられることのない、抽象化された、あるいは個別的・具体的でない事態を表わすと述べたが、*-mi* のこのような意味機能は具体的には(a)未来、(b)習慣、(c)属性、(d)法則、(e)話し手の想起する事態、として現れる。以下、それぞれの例を列挙する。

(a)未来

- (1) bi cimare urumci=de gene-mi.
1SG 明日 ウルムチ=DAT 行く・MI
「私は明日ウルムチに行く」
- (2) tere ji-mee honim=be emken wa-mi.
3SG 来る・CVB.EMPH 羊=ACC 1(匹) 殺す・MI
「彼が来たら羊を一頭殺す」

(b)習慣

- (3) juban nane nimha lafdu je-mi.
日本人 魚 多く 食べる・MI
「日本人は魚をよく食べる」
- (4) siwe nane nane buce-mee ilaN ineqe senda-mi.
シベ人 人 死ぬ・CVB.EMPH 3 日 置く・MI
「シベ人は人が亡くなったら、(葬儀までに) 3日間おく」

(c)属性

- (5) min amee guške arki ami-mi.
1SG.GEN 父 恐ろしく 酒 飲む・MI
「私の父は酒を恐ろしく飲む」
- (6) bi sejen yale-me bahane-mi
1SG 車 跨る・CVB 出来る・MI
「私は自転車に乗れる」
- (7) tere yase save-qu
3SG 目 見える・MI(NEG)
「彼は目が見えない」

(d)法則

- (8) sun warxi=deri cici-mi.
太陽 東=ABL 出る・MI
「太陽は東から昇る」
- (9) twa ba=de weile-re nane guške qanqe-mi
火 場所=DAT 働く・IMPF.PART 人 とても のどが渴く・MI
「火のそばで仕事をする人はとてものだが渴く」

(e)想起される事態

- (10) 話し手はテレビ塔の展望台から下の景色を見ている：
sejeN muku uyi-re emduruN yave-mii

車 水 流れる・MI.PART 同様に 走る・MI.EMPH
 (長く連なる車列を見て)「車が水が流れるように走っている」

(11) 転倒事故を起こしたバスに乗っていた乗客が回想して:

erkee yavee seme gisere-Xe-ne, nane dyanji-qu.
 ゆっくり 走れ CMP いう-XEI.PART-NMLZ 人 聞く・MI(NEG)
 「ゆっくり走れと言ったがやつは(運転手は)聞かない」

以下、これらの各用法が、*-mi* の「時間軸上に個別的・具体的な事態として位置付けられることのない、抽象化された事態を表わす」という意味機能とどのように結びつくのかを見ていく。

2.1.1 *-mi* と「未来」

「未来」を表わす *mi* は、発話時において未だに生起していないことから、現実的な個性・具体性を欠くと説明することができる。

(12) tere cimare isine-mii
 3SG 明日 到着する・MI.EMPH
 「彼は明日到着する」

(12)は主語が3人称の場合であるが、主語が1人称の場合には、話し手の意思を表わすように見える。しかし、話し手の意図は希求法の *-ki* によって、より明示的に表され、*-mi* の表わす非現実の事態とは性質が異なる。

(13) a. tere ji-mee honim=be emkeN wa-mi.
 3SG 来る・CVB.EMPH 羊=ACC 1(匹) 殺す・MI
 「彼が来たら羊を一頭殺す」(=2)
 b. tere ji-mee honim=be emkeN wa-ki.
 3SG 来る・CVB.EMPH 羊=ACC 1(匹) 殺す・OPT.1
 「彼が来たら羊を一頭殺そう」

2.1.2 *-mi* の表わす「習慣」

次は *-mi* が「習慣」表わす場合である。*-mi* によって表される「習慣」は現在行われている習慣(14)だけでなく、現在では行われなくなった過去の習慣(15)をも表しうる。

(14) tere ineqedari feksime uruvu-mi

3SG 毎日 ジョギングする・MI

「彼は毎日ジョギングをしている」

(15) tere daci inenɛdari feksime uruvu-mi

3SG 昔 毎日 ジョギングする・MI

「彼は昔毎日ジョギングをしていた」

しかし、「習慣」は必ずしも・mi で表わされるわけではなく、・mahei で表わされる場合も存在する。

(16) tere inenɛdari feksime uruvu-mahei / feksime uruvu-mi

3SG 毎日 ジョギングする・MAHEI/ジョギングする・MI

「彼は毎日ジョギングをしている」

これらの例は例えば英語ではいずれも現在形を用いて表されるが、シベ語では両者は・mi と・mahei で区別されている。

(17) He goes jogging every day.

(18) He teaches in the school.

・mi と・mahei それぞれで表される「習慣」の差異に注目すると、・mi で表される「習慣」の方が、・mahei で表される「習慣」に比べてより一般的な習慣について表わすことが分かる。例えば以下の(19)、(20)を見ると、民族全体の習慣について述べている(19)では・mi のみ容認され、・mahei は容認されないが、個人の習慣について述べている(20)では・mi だけでなく・mahei も容認される。

(19) sinjaŋe=i iqaN, siwe, moŋu ukserɛ noŋli ani=de ani

新疆=GEN 漢 シベ モンゴル 族 旧暦=DAT 年

are-mi/*⁶are-mahei.

作る・MI/*作る・MAHEI

「新疆の漢族、シベ族、モンゴル族は農曆（旧暦）で年を越す」

(20) bi gele siwe ani=de ani are-mi/are-mahei

1SG も シベ 暦=DAT 年 作る・MI/作る・MAHEI

（普通なら太陽暦で年を越すはずの日本人が）「私もシベ族の暦（旧暦）で年を越している」

⁶ 例文の判断について、*は文脈によらずに不適格なものを、?(?)は適格となるような文脈が通常は想定できないものを表す。

更に・mi と・mahei が両方容認される(20)の場合でも、用いられる状況により容認度が変わることが分かった。つまり、・mahei は一年のうちどの時期においても用いられるが、・mi は年越しの時期、つまり実際に事態が生起している状況では用いられにくい。

同様のことは先に挙げた他の例についても言える。例えば、(5)の・mi を・mahei に変えた(21)は、父親が実際に目の前で酒を飲んでいる状況で用いられるという⁷。

- (21) min amee guške arki ami·mahei.
 1SG.GEN 父 恐ろしく酒 飲む·MAHEI
 「私の父は酒を恐ろしく飲んでいる」

これらの例から考えると、・mi、・mahei はいずれも習慣的に繰り返される行為を表わすものの、・mi によって表される行為は・mahei で表される行為に比べより一般性が高いことが分かる。具体的に見ると、(19)のように民族全体の習慣について述べる場合には・mi が好まれるのに対し、(20)のように具体的な個人の習慣について述べる場合には反対に・mahei が好まれ、また(5)のように個人の属性について述べる場合には・mi が好まれるのに対し、(21)のように、話し手の目の前というように場面が限定されると反対に・mahei が好まれる。

2.1.3 -mi の表わす「属性」

・mi は以下のように職業など個人の属性も表わすが、個人の属性は・mahei によっても表されうる。

- (22) tere taciqu=de sefe ?daŋle·mahei/daŋle·mi
 3SG 学校=DAT 教師 担当する·MAHEI/担当する·MI
 「彼は学校で教師をしている」
- (23) tere am=taciqu=de siwe gisuN ?sibki·mahei/sibki·mi
 3SG 大=学校=DAT シベ語 学ぶ·MAHEI/?学ぶ·MI
 「彼は大学でシベ語を研究している」
- (24) tere am=taciqu=de siwe gisuN taci·mahei/?taci·mi
 3SG 大=学校=DAT シベ語 学ぶ·MAHEI/?学ぶ·MI
 「彼は大学でシベ語を勉強している」

コンサルタントによれば(21)は学校で常勤の教師をしている人に対して用いられるという。(22)、(23)、(24)から見ると、個人の職業の中でも教師、研究といった比較的長期間変わらない属性と解釈されやすいものほど・mi が好まれ、学生のようにある程度年限が定まっ

⁷ しかし、目の前で父親が酒を飲んでいる状況下で・mi が許容されないわけではない。この場合の・mi は 2.1.5 で検討する。

ている場合には逆に・mahei が好まれるといえる。

更に 2.1.1 で見たように、シベ語において大部分の動詞は・mi をとることにより「未来」を表しうが、mutu・「できる」、bahane・「できる」、sa・「知る」taqe・「分かる／面識がある」、ulixi・「(人の言葉を) 理解する」といった一部の動詞は・mi をとって「未来」を表わさない。以下、このようなタイプの動詞を仮に状態動詞と呼ぶことにするが、これらの動詞も・mi をとる場合に「属性」を表わすと見ることができる。

- (25) si GoshuN jaqe je·me mutu·mi na?
 2SG 辛い もの 食べる-CVB できる-MI QP
 「あなたは辛い物を食べることができますか？」
- (26) tere sejeN yale·me bahane·mi
 3SG 車 跨る-CVB できる-MI
 「彼は自転車に乗れる」
- (27) si terewe taqu·mi na?
 2SG 3SG.ACC 分かる-MI QP
 「あなたは彼のこと分かりますか？（彼に面識がありますか？）」

状態動詞も・mahei をとることが可能であるが、使用される状況が異なる。

- (28) si GoshuN jaqe je·me mutu·mahei na?
 2SG 辛い もの 食べる-CVB できる-MAHEI QP
 「あなたは辛い物を食べられるようになってきていますか？」
- (29) tere sejeN yale·me bahane·mahei
 3SG 車 跨る-CVB できる-MAHEI
 「彼は自転車に乗れるようになりつつある」
- (30) si mimbe taqu·mahei na? muse durinkyaN
 2SG 1SG.ACC 分かる-MAHEI QP 1PL.INCL 去年
 hango·de sawe·hei ba?
 韓国-DAT 会う-XEI MP
 「あなたは私のこと分かりますか？私たち去年韓国で会いましたよね？」

これらの例において、・mahei は共通して、発話状況において個別的・具体的な事態として観察されるような、属性ないし知識状態を表している。具体的には、(28)は聞き手が辛い物を食べている状況で発話され、この時「辛いものが食べられる」という能力が観察可能である。(29)は、発話時において「彼」が自転車に乗れている所を観察し、「自転車に乗ることができる」という能力を確認することが可能である。(27)、(30)は「相手のことが分かる」という知識状態について述べている文であるが、発話参与者に関する知識を問う(30)

の文では・mahei が用いられ、そうでない(27)の文では・mi が用いられることから考えると、より発話現場という限定された場面における知識と問うことが・mahei の使用に関わっていると見ることが可能である。これらの特徴から考えると、状態動詞の場合にも、・mi が具体的な場面に限定されないような主語の属性を表わすのに対し、・mahei は限定された具体的な場面における主語の属性を表すといえる。

2.1.4 -mi と「法則」

・mi は法則を表わす場合も存在する。

- (31) sun warxi=deri cici-mi.
 太陽 東=ABL 出る・MI
 「太陽は東から昇る」 (=8)

「法則」を表わす mi も、習慣を表わす mi と同様、具体的な事態に還元するのが困難であると考えられる。(31)の・mi は・mahei に置きかえ可能であるが、・mahei は話し手が実際に太陽が東の空から昇って来るのを目撃している場合にのみ用いられるという制限が存在する⁸。「属性」を表わす 2.1.3 の場合と同様に、・mi が具体的な事態に還元されない法則を表わすのに対し、・mahei は個別的・具体的なプロセスを表わすといえる。

- (32) sun warxi=deri cici-mahei.
 太陽 東=ABL 出る・MAHEI
 「太陽が東の空から昇っている」

2.1.5 -mi と「話し手の想起する事態」

2.1.4 までに見た(a)未来、(b)習慣、(c)属性、(d)法則の場合は、いずれも・mi は「具体的な事態を表さない」と見ることができた。この時、・mahei は個別的・具体的な事態を表わすため、発話時において実際に事態が生起している場合には・mahei が用いられることを示した。しかし問題となるのは、・mi も眼前において生起している（あるいは過去に眼前で生起した）事態を表しているように見える例が存在することである。

- (33) 話し手はテレビ塔の展望台から下の景色を見ている：

sejen muku uyi-re emduruN yawe-mii
 車 水 流れる・MI(PART) 同様に 走る・MI.EMPH

⁸ ・mi は同様の状況でも使用可能であるが、この場合も個別的・具体的なプロセスを表すとは考えない。詳しくは 2.1.5 で述べる。

「(車列が連なる様子を見て) 車が水が流れるように走っている」 (=10)

- (34) 乗っていたバスが事故を起こした人の回想：

erkee yawee seme gisere-Xe-ŋe, nane dyanji-qu.
 ゆっくり 走れ と いう-XEI(PART)-NMLZ 人 聞く-MI(NEG)
 「ゆっくり走れと言ったがやつは(運転手は) 聞かない」 (=11)

これらの例では、話し手が述べる事態が実際に生起しているため、-mi の表わす「具体的・個別的な事態を表さない」という意味機能に反するように見える。しかし、興味深いことに(33)のように眼前で事態が生起している場合でも、以下のように傍らにいる聞き手にも見ることを促すような場面では-mi を用いることができず、-mahei のみが用いられる。

- (35) 話し手はテレビ塔の展望台から下の景色を見ている：

si ta sejeN muku uyire emduruN
 2SG 見る(IMP) 車 水 流れる-MI(PART) 同様に
 ??yawe-mii/ yawe-mahei
 走る-MI.EMPH/ 走る-MAHEI
 「(車列が連なる様子を見て) 見て！車が水が流れるように走っている」

このことは、-mi が眼前の事態について述べるために用いられうるものの、眼前の事態を聞き手も観察可能な形で具体的に「描写」しているわけではないことを表している。(34)のような、過去の回想に用いられる-mi についても同様に、過去に生起した事態を聞き手にも観察可能な形で具体的に描写しているのではなく、単に抽象的な形で想起しているに過ぎないと考えられる。

2.2 -mi の表わすもの

本節では-mi の機能を主に-mahei と比較しつつ検討してきたが、ここで-Xei との比較も行っておく。2.1 では、-mi が実際に生起する事態に還元されない抽象的な事態を表わすのに対し、-mahei が実際に生起する具体的な事態を表わすことを見たが、-Xei も実際に生起する(した) 具体的な事態を表わすと言える。このことを、状態動詞の場合について見る。

- (36) tere sejeN yale-me bahane-mi
 3SG 車 跨る-CVB できる-MI
 「彼は自転車に乗れる」

- (37) tere sejeN yale-me bahane-hei
 3SG 車 跨る-CVB できる-XEI
 「彼は自転車に乗れた」

この例文は、以下のように過去の具体的な時点を表わす副詞的要素、例えば ceksee「昨日」等の要素を挿入すると判断に差異が現れる。(15)で見たように、-mi は過去を表す副詞的要素でも、「昔」のような具体的でない時を表すものとは共起可能である。

(38) *tere ceksee sejeN yaleme bahane-mi
 3SG 昨日 車 跨る-CVB できる-MI
 「彼は昨日自転車に乗れる」

(39) tere ceksee sejeN yale-me bahane-hei
 3SG 昨日 車 跨る-CVB できる-XEI
 「彼は昨日自転車に乗れた」

このことから、-Xei も-mahei と同様に実際に生起する（した）個別的・具体的な事態を表わすと見ることができる。これらを総合すると、-Xei, -mahei と対比した場合の-mi の機能的特徴は「実際には実現していない抽象的事態」を表わすことにあって考えられる。

さて、ここまでの議論から、-mi と-Xei, -mahei の対立は本質的に「実際に生起する事態か否か」の点にあると考えられるが、先に見た「習慣」の場合を考えると、その境界は必ずしも明確ではない。

(40) tere inejedari feksi-me uruvu-mahei / feksi-me uruvu-mi
 3SG 毎日 ジョギングする-MAHEI/ジョギングする-MI
 「彼は毎日ジョギングをしている」

このように、-mahei と-mi が両方使用可能で、しかも共に習慣的な行為を表わすような例は決して少なくない。しかし、(19,20)に見られるように、社会的習慣よりも個人的習慣の方が-mahei で表わされやすく、同じ事態でも(31)のように法則として表されるよりも(32)のように個別的事態として表されると-mahei で表わされやすくなる、という関係を考えて、習慣とまとめられる諸々の現象にも、一般性のより高い方が-mi で表わされやすく、一般性の低い方が-mahei で表わされやすいという連続性を見てとることが可能である。

3. -mahei と-Xei の機能的対立

2 節では、-mi の機能を-mahei, -Xei と比較しつつ検討したが、本節では-Xei と-mahei の差異を検討する。2 節の冒頭で述べたように、結論から言えば-Xei は完了的(perfective)に捉えられた個別的・具体的な事態を、-mahei は非完了的(imperfective)に捉えられた個別的・具体的な事態を表わす。

3.1 「完了的 (perfective)」と「非完了的 (imperfective)」

本節の議論に入る前にまず「完了的 perfective」という用語について定義しておきたい。本稿では「完了的」を Langacker(2008:155)における英語の進行形(progressive)の分析⁹を参考にして、「事態の開始点と終結点を含むような事態把握のあり方」であるとする。これに対して「非完了的 imperfective」は、「事態の終結点を含まないような事態把握のあり方」と規定することにする。

3.2 接尾辞-XeI の機能

-XeI の表す「完了的」な事態把握のあり方がどのようなものか、以下具体的に見ていく。まず、「完了的な事態把握」とは、行為による結果の実現を含意するような事態把握のあり方ではない。例えば以下の例(41)において、dase-「修理する」という動詞は-XeI を伴っても対象が直ったという結果を含意しない。そのため、修理して直ったかどうかという結果を問題にする場合には、(41b)のように、結果を表すような別の動詞（この場合は mutu-「できる」）を後続させる必要がある。

- (41) a. ??bi ilaN ineŋe dyannao dase-he-ŋe,
 1SG 3 日 パソコン 修理する-XEI(PART)-NMLZ
 gele dase-haqui
 また 修理する-XEI(NEG)
- b. bi ilaN ineŋe dyannao dase-he-ŋe,
 1SG 3 日 パソコン 修理する-XEI(PART)-NMLZ
 gele dase-me mutu-Xaqui
 また 修理する-CVB できる-XEI(NEG)
 「私は三日かけてパソコンを修理したが、直らなかった」

また、2.1.4 で見たように、状態動詞も-Xei, -mahei の両方の接辞を取りうるが、この時に表わされるのは、属性（能力）が発揮される、という一回的な事態の生起であり、属性（能力）が継続的に発揮されていたということではない。

- (42) tere ceksee sejeN yale-me bahane-hei
 3SG 昨日 車 跨る-CVB できる-XEI

⁹ Langacker(2008:155)は英語の進行形について以下のように述べている: "The overall effect of a progressive is thus to convert a perfective process into an imperfective one, The bounded occurrence profiled by the former functions as conceptual base for the latter, which profiles an internal portion that excludes the endpoints."

「彼は昨日自転車に乗れた」

また、完了的な事態把握のあり方というのは、telic (限界的) か atelic (非限界的) か、という事態の内的限界の有無からも独立したものであり、-Xei は必ずしも事態の内的限界点を迎えることを含意しない。例えば以下の(43)では-Xei が用いられているが、「その本を読了した」ことは必ずしも含意されていない。

- (43) bi tere bitkee=we eme eriN ta-hei.
 1SG その 本=ACC 1 時間 読む-XEI
 「私はその本を 1 時間読んだ」

「その本を読了した」ことを表す場合は、動詞 ta-「読む」に動詞 waje-「終わる」を後続させるか、または期間を表わす時間的要素と da「もう」という副詞的要素を組み合わせることにより明示的に表わされ、動詞 ta-「読む」自体がとる接尾辞により表されるわけではない。

- (44) bi tere bitkee=we eme eriN da
 1SG その 本=ACC 1 時間 もう
 ta-me waje-hei
 読む-CVB 終える-XEI
 「私はその本を 1 時間で読み終えた」
- (45) bi tere bitkee=we eme eriN da ta-hei.
 1SG その 本=ACC 1 時間 もう 読む-XEI
 「私はその本を 1 時間で読んだ」

これらのことから、-Xei が表す完了的な事態の把握のあり方というのは、結果状態の含意や、事態の内的限界点の有無に作用することのない、単なる事態の開始点と終結点を含むようなものであるといえる。

3.3 -Xei と-mahei の機能的対立

次に、接尾辞-mahei の機能を、3.2 において完了的に把握された事態を表すとした-Xei と対照しながら論じていく。先に述べたように、-mahei は非完了的(imperfective)に把握された個別的・具体的事態を表わす。

3.3.1 回数表現との共起

-Xei と -mahei の差異はまず回数を表わす要素との共起関係に現れる。回数を表わす要素と共起出来るのは -Xei のみであり、-mahei は共起出来ない。

- (46) bi gya=de eltsan=we juu medaN sawe·hei/??sawe·mahei
 1SG 通り=DAT 児倉=ACC 2 回 見る-XEI/??見る-MAHEI
 「私は通りで児倉を 2 回見かけた」

この現象は、-Xei が事態を開始点と終結点を含め完結したものとして捉えるため回数を問題にすることができるのに対し、-mahei は事態を完結したものとしては捉えないため回数を問題にすることができないと説明することができる。

3.3.2 期間・距離を表わす要素との共起

-Xei と -mahei の差異は「期間」を表わす副詞的要素との共起関係にも現れる。

- (47) bi oriN ani sefe danle·hei/??danle·mahei
 1SG 20 年 教師 担当する-XEI/??担当する-MAHEI
 「私は 20 年教師をした／している」

(47)の例から分かるように、「20 年」という期間を表わす副詞的要素と -mahei は共起しない¹⁰。このように -Xei, -mahei と期間を表す要素との共起関係に差異が生じる理由は、「20 年」という期間が開始点と終了点を含んでいるため、完結したものとしてしか解釈されないことにあると考えられる。実際に、「期間」を表す要素が、単に時間の長さしか表さないように 20 年契約の教師生活を送っているという（一般には想定しづらい）状況を想定した場合には、その中途段階であっても -mahei が使用可能になる。

- (48) bi oriN ani=i sefe danle·hei/danle·mahei
 1SG 20 年=GEN 教師 担当する-XEI/担当する-MAHEI
 「私は 20 年（契約）の教師をしている」

¹⁰ ちなみにこの例において -Xei が用いられた場合は、「私」が現在教師を続けているかどうかは不明であり、もし現在でも教師を続けていることを明示するのであれば以下のように表わす。

- bi sefe danle·mee orin ani o·hui.
 1SG 教師 担当する-CVB.EMPH 20 年 なる-XEI
 「私は教師をして 20 年になる」

同様の現象は、期間を表わす要素だけでなく空間的な距離を表わす要素にも見られる。ある距離を決めて走っている途中の段階について述べる場合、以下の(49)のように任意の距離であるよりも、(50)、(51)のようにマラソンの距離として定着している距離の方が・maheiの許容度が上がる。

- (49) bi oriN kilometer feksi-xei/??feksi-mahei
 1SG 20 キロメートル 走る-XEI/??走る-MAHEI
 「私はもう 20 キロ走っている」
- (50) bi dixé juu kilometer feksi-xei/?feksi-mahei
 1SG 42 キロメートル 走る-XEI/?走る-MAHEI
 「私は 42 キロ (マラソン) を走っている」
- (51) bi malason feksi-xei/feksi-mahei
 1SG マラソン 走る-XEI/走る-MAHEI
 「私はマラソンを走っている」

このように、-Xei は、開始点と終結点をもつ期間・距離を表わす要素と共起出来るのに対して、-mahei はそうではない。このことから、-Xei は完了的に把握された事態、-mahei は非完了的に把握された事態を表わすと考えられる。

3.4 -Xei と-mahei の対立を持たない動詞

3.2 で見たように、シベ語において事態を完了的に把握するか、非完了的に把握するかという対立は、事態が限界的(telic)か非限界的(atelic)かということから独立しており、語彙的に限界的な事態を表す動詞であれ、非限界的な事態を表す動詞であれ、-mi, -mahei, -Xei を全て取ることができるが、僅かながら-mi しか取ることのできない動詞が存在する。例えば、adališi-「似ている」と bi-「ある」のようなものである。まず、adališi-「似る」は、-Xei, -mahei をとることができない。

- (52) ere juu jaqe guške adališi-mi/*adališi-hei/*adališi-mahei
 この 2つ もの 恐ろしく 似る-MI/*似る-XEI/*似る-MAHEI
 「この2つはとてもよく似ている」

また、adališi-「似ている」は人間を主語にする場合は、後ろに banji-「生まれる」という動詞を必ずとる¹¹。

¹¹形容詞である「美しい」も、adališi-と同様に banji-「生まれる」を後続させることが可能である。

- (53) tere amee=de=ni adališi-me banji-hei
 3SG 父=DAT=POSS 似る-CVB 生まれる-XEI
 「彼女は父親に似ている」

このような例は一般的な形容詞との関係から見ると非常に興味深い。シベ語においていわゆる「形容詞」は、動詞のように義務的に -mi, -mahei, -Xei をとらない点で、名詞(55)に似た振る舞いを見せる。

- (54) jungo=i ba na juben=deri lafdu ambu
 中国=GEN 土地 日本=ABL 大いに 大きい
 「中国の国土面積は日本より遥かに大きい」

- (55) ere haheji juban tacisi
 この 男の子 日本 学生
 「この子は日本の学生だ」

adališi-「似ている」のような動詞は、-mi, -mahei, -Xei のうち、とれるものが限定されている点で動詞の中でも形容詞に近いものであると考えられる。「似ている」というのは「関係」という状態的な事態の一種であるが、その状態的であるという意味的特徴が、形態統語的にも形容詞に近い振る舞いを見せる動詞として現れていると見ることができる¹²。

このような動詞の例としてもう一つ bi-「ある」が存在する。bi-も -mahei をとることができない¹³。

- (56) tere boo=de bi/bi-xei/??bi-mahei
 3SG 家=DAT いる/いる-Xei/??いる-mahei
 「彼は家にいる」

これも「存在」という語彙的な意味の状態的な意味的特徴が形態統語的なふるまいに影響しているといえるだろう。

tere	qwaryaje	banji-Xei	
3SG	美しい	生まれる-XEI	「彼女は美しい」

¹² Givón(2001:54)では、時間的安定性(temporal stability)に基づいた名詞・形容詞・動詞の分類が行われているが、この枠組みに沿えば、「関係」は動詞の中でも時間的安定性が高いために形容詞に近いと考えられる。

¹³ ここでは、bi-は語幹そのままの“bi”という形式で表れているが、“bi”は意味的特徴から他の動詞の-mi が付加した形式に対応するものとする。

4. 名詞・形容詞述語文における actual/non-actual の区別

3節までは動詞述語文を中心に見てきたが、本節では名詞述語文や形容詞述語文¹⁴がどのような形式をとるか見る。シベ語において名詞、形容詞はともにコピュラを伴うことなく単独で述語を形成することができる。

- (57) tere miN haheji
3SG 1SG.GEN 息子
「彼は私の息子だ」
- (58) tere=i sahanji guške qwaryaje
3SG=GEN 娘 恐ろしく美しい
「彼の娘はとても美しい」

形容詞述語文は、コピュラを伴わずに過去の状態を表わすことも可能であるが、現在と異なる状態であることを明示する場合には、補助動詞 bixenje (bi-「ある」の完了形に名詞化要素 -nje が後続したもの) を用いる。

- (59) tere xexe asheN erin=de guške qwaryaje
あの 婦人 若い 時=DAT とても 美しい
「あの婦人は若い時とても美しかった」
- (60) tere xexe ashen erin=de guške qwaryaje bi-xe-nje
あの 婦人 若い 時=DAT とても 美しい ある・XEI(PART)-NMLZ
「あの婦人は若いころとても美しかった」

このように、名詞・形容詞述語文では動詞述語文の場合に -mi, -mahei, -Xeи で区別されたような actual/ non-actual、imperfective/perfective の区別が無くなる。問題はこの時、名詞・形容詞単独の述語形式が actual/non-actual の両方を表しうるのか否か、ということである。

ここでもう一度動詞述語文における actual/non-actual の区別を振り返ると、状態動詞の中でも、mutu-「できる」のように actual/non-actual の区別がある動詞がある一方、adališi-「似ている」のように actual の形式を取りえない動詞も存在した。このように、動詞の中でも actual の形式を取りえないものが存在することから、名詞・形容詞が単独で現れる述語の文も actual なものを表さないと考えられる。このことを踏まえて述語の種類と、actual/non-actual の関係をまとめたのが以下の表3である。

¹⁴ ここでは、名詞と形容詞を便宜上区別しているが、シベ語では形容詞が名詞に近いふるまいをするため、実際には両者の区別はそれほど明確ではない。

表 3 : 動詞の種類と・mi, ・mahei, ・Xeи の共起関係

		(一般的な) 動詞	状態動詞		名詞・形容詞
			mutu- "できる"等	adališi- "似ている"等	
non-actual		・mi	・mi	・mi	∅
actual	非完了	・mahei	・mahei	*・mahei	—
	完了	・Xeи	・Xeи	*・Xeи	—

5. シベ語にテンスはあるか？—シベ語における時間ダイクシス

これまで動詞接尾辞・mi, ・Xeи, ・mahei の意味機能をアスペクトの側面から考察してきたが、ここでもう一度、先行研究の分析との関係を考えながら、シベ語のテンス・アスペクトの体系への位置付けを行いたい。テンス・アスペクトの体系という観点から見て、先行研究である李樹蘭ほか（1984）の分析の特徴は主に以下の2点にまとめられる。

- ・「過去」と「現在—未来」というテンスの対立を認めている。
- ・bi-, o-という2つの補助動詞をテンス・アスペクトの体系に組み込んでいる。

ここで特に問題となるのは、シベ語にテンスの文法的対立があるかどうかということである。テンスは Comrie(1985:9)には、「時間軸上の位置の文法化された表現 grammaticalised expression of location in time」であり¹⁵、時間軸上の位置は発話時を基準とした直示的 (deictic) 方法により指示される¹⁶、とあるが、シベ語の時間指示（時間ダイクシス）のありかたがどのようなものか、検討する必要がある。

この問題に対して、特に名詞述語文・形容詞述語文に注目すると、過去の属性／現在の属性／未来において予測される属性が形式的に全く区別されないため、シベ語には文法的なテンスが無いとすることが可能である。

- (61) terei sahanji guške qwaryaŋe
 3SG.GEN 娘 とても 美しい
 「彼の娘はとても美しい」 (=58)

形容詞述語文は、そのまま過去の状態も表わすことができる

¹⁵ Comrie(1985:9)には、“The basis of the discussion in the body of this book is that tense is grammaticalised expression of location in time.”とある。

¹⁶ Comrie(1985:14)には、“A system which relates entities to a reference point is termed a deictic system, and we can therefore say that tense is deictic.”とある。

- (62) tere xexe asheN erin=de guške qwaryaje
 あの 婦人 若い 時=DAT とても 美しい
 「あの婦人は若い時とても美しかった」 (=59)

同じことは・mi の場合にも言える。・mi は、過去の時間を表わす要素と共起しても、現在を表わす要素と共起しても、形式を変えることが無い。

- (63) tere ineqedari feksime uruvu·mi
 3SG 毎日 ジョギングする・MI
 「彼は毎日ジョギングをしている」 (=14)
- (64) tere daci ineqedari feksime uruvu·mi
 3SG 昔 毎日 ジョギングする・MI
 「彼は昔毎日ジョギングをしていた」 (=15)

また、文法化されたテンスを持つ英語における現在完了と過去完了¹⁷のような、2つの時点の相対的な前後関係を専門に表す形式もシベ語には全く存在せず、全て・Xei で表わされる。

- (65) min ji·xe erin=de tere emgeri ji·xei
 1SG.GEN 来る・XEI(PART) 時間=DAT 3SG 既に 来る・XEI
 「私が来た時には彼は既に来ていた」
- (66) tere emgeri ji·xei
 3SG 既に 来る・XEI
 「彼は既に来ている」

これらのことから、シベ語には文法的なテンスの対立はないということができる。しかし、このとき問題となるのは、シベ語がどのような方法で事態を時間軸上に位置付けているのか、ということである。

シベ語では、先に述べたとおり・mi で表される non-actual な事態は、時間軸上に位置付けられないことがないが、・Xei, ·mahei で表される actual な事態の場合をみると、完了的・非完了的という事態把握のあり方と、過去・現在という時点にはある程度の対応関係が見られる。一般的にある言語において文法的なテンスが無い場合、完了／非完了を表す要素は過去・非過去を問わず完了／非完了の事態を表わしうることが予想されるが、シベ語の場合は制限が見られる。

¹⁷ここでの「過去完了」は pluperfect(Comrie 1976:56)に相当する。

- (67) tere enege wudyanjun=de bitkee ?are·mahei/are·hei
 3SG 今日 5時=DAT 本 ?書く·MAHEI/書く·XEI
 「彼は今日5時には本を書いていた」

(68)のように、·mahei は過去のある時点において進行中の事態を無制限に表せるわけではないが、以下の(69)のように、話し手が目撃したということが担保されている場合は·mahei が過去のある時点において進行中の事態を表わすことが可能になる。

- (68) bi yacin mamee=i puse=de gene·Xe·ŋe,
 1SG 黒 おばあさん=GEN 店=DAT 行く·XEI(PART)·NMLZ
 yacin mamee jene jihaa tolu·mahei.
 黒 おばあさん ちょうど お金 数える·MAHEI
 「わたしが“黒いおばあさん”の店に行ったら、黒いおばあさんはちょうどお金を数えていた」

このことを整理すると、シベ語では過去・現在を区別する文法的なテンスを持たないが、反対に·Xei, ·mahei の両形式を過去・現在に関わらず用いることが可能であるということでもなく、話し手が事態を目撃したかどうか両形式の選択にとって重要であるといえる。

さらに、三点目の問題もシベ語の時間ダイクシスの面から考えると興味深い。筆者は兒倉(2008,2009a,2010)において、シベ語の補助動詞 bi-, ila-, o- の分析を行った。これらの補助動詞はアスペクトの面から見ると、それぞれ結果状態、継続状態、事態の生起を表わすが、興味深いのはこれらの形式もまた、発話時を基準としてアスペクトが選択されると見られることである。以下は補助動詞 bixei, ohui, ilahei の例であるが、(70)において biXei は発話時(発話現場)における話し手の発見を表し¹⁸、(71)において ohui は発話時における話し手の判断を表し、(72)において ilahei は話し手は直接経験している部屋の一時的状態(日が暮れて暗い、という状態)を表している。

- (69) 聞き手の着ている服を指して：
 quaryaNe bi·xeii
 可愛い ある·XEI.EMPH
 「(この服、) かわいいねえ」
- (70) 辛い唐辛子を齧って一言：
 ere cunjee davele GoshuN o·hui

¹⁸ 1節で見たように李樹蘭ほか(1984)において、このような bi- は「過去」を表わすとされている。しかし、例文(66)は話し手の眼前で展開されている事態であり、これを「過去」と呼ぶのは問題があると思われる。ちょうど日本語においても「こんなところにあった」という文における「た」が過去をあらわしていないのと同様である。

- この 唐辛子 余りに 辛い なる・XEI
「この唐辛子は余りに辛すぎる（辛すぎて食べられない）」
(71) 話し手が聞き手のいる部屋に入って一言：
oi farhuN ila·hei deNjeN lii
感動詞 暗い 止まる・XEI 電灯 点ける(IMP).EMPH
「おいちょっと暗いな、灯りを点けろ」

筆者は児倉（2009）において、補助動詞 *bi*, *ila*・, *o*・が閉じた体系をなすと論じたが、これらの例文における補助動詞の機能の対立は事態のアスペクト性というよりむしろ話し手による事態の認識のあり方の違いであるといえる。さらに先に見たように・*Xei*, ・*mahei* の使い分けが、話し手が事態を直接目撃したかどうかに関わることを考えると、シベ語において述語形式の選択に関わるのは、事態の時間的側面というよりむしろ話し手による事態の認識のあり方の違いであり、これがシベ語における時間ダイクシスの根本をなすと考えられる。

略号一覧

1/2/3	1 人称/2 人称/3 人称	PART	形動詞
SG/PL	単数/複数	CVB	副動詞
INCL/EXCL	包括/除外	IMP	命令法
GEN	属格	OPT	希求法
DAT	与位格	NMLZ	名詞化
ACC	対格	QP	疑問小詞
ABL	奪格	MP	モダリティ小詞
POSS	所有	EMPH	談話的強勢

参考文献

- 児倉徳和(2008)「シベ語の述語形式と情報のステータス—話し手と聞き手の共有知識の観点から—」寺村政男、久保智之、福盛貴弘（編）語学教育フォーラム 16『言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—』, 大東文化大学語学教育研究所, 143-158.
———(2009)「知覚とアスペクト・証拠性：シベ語の補助動詞」（ワークショップ「知覚の言語学に向けて—知覚と行為の関係はどう言語化されるか」第 4 発表）, 『日本言語学会第 139 回大会予稿集』, 日本言語学会, 334-339.
———(2010)「シベ語の動詞 *o*・について」呉人恵編『環北太平洋の言語』15, 富山大学人文学部, 117-130.
李樹蘭, 仲謙, 王慶豊(1984)『錫伯語口語研究』民族出版社, 北京.
Comrie, Bernard. (1976) *Aspect*. Cambridge University Press, Cambridge.

- . (1985) *Tense*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Givón, Talmy. (2001) *Syntax: an introduction*. Vol.1, John Benjamin, Philadelphia.
- Kubo, Tomoyuki. (2008) A sketch of Sibe phonology. in Teramura, Kubo and Fukumori (eds.), *Contributions Towards Research and education of Language Vol.16 Studies of language -From the viewpoint of Eurasian languages*, Institute for the Research and Education of Language, Daito Bunka University, Tokyo, 127-142.
- Langacker, Ronald. W. (2008) *Cognitive grammar: a basic introduction*, Oxford University Press, Oxford.

On the three verbal suffixes -mi, -Xeï, -mahei in Sibe Manchu:
aspect and the structure of temporal deixis

Norikazu Kogura

Keywords: Sibe Manchu (Manchu-Tungusic), Tense-aspect, Temporal deixis

Abstract

In the present paper, the function of three verbal suffixes, -mi, -Xeï, -mahei, is discussed. Formerly, it was argued that Sibe Manchu has a grammatical tense distinction of Past vs. Non-Past. However, this paper provides some evidence that Sibe Manchu has no tense distinction but distinguishes between actual (-Xeï, -mahei) and non-actual (-mi) situations, arguing that although Sibe Manchu makes no grammaticalised tense distinction, the choice of aspect is related to speech time (ST).

こぐら・のりかず (博士課程)